

八丈島にて公開講演会を開催しました

今春の伊豆大島での開催に引き続き、八丈島で10月19日（金）、20日（土）の2日間にわたって「八丈島民大講座」と共催で「オープンユニバーシティ公開講演会」を開催しました。

<http://www.soumu.metro.tokyo.jp/09hatijou/e/e-news/e-news20071015/e-news071015touminndaigakukouza.html>（八丈支庁ホームページでの広報より）

東京都立大学では1983年以来15年に亘って研究成果の還元を図る目的で年2回、伊豆諸島、小笠原の島々で「島嶼公開講演会」が開催されてきましたが、近年は休止状態で首都大学東京としても実施されていませんでした。本プロジェクトでは、本学の社会人教育の活性化、研究成果還元の意味を再確認する事を目的に「公開講演会」の企画、開催を行なっています。

（左：八丈タイムスに掲載された講座の紹介記事）



（講演会の様子。2日間で延べ150名余りの参加者があり、講演後の質疑応答も非常に活発でした。）

年2回開かれる「八丈島民大講座」（同実行委員会主催）のうち1回は、今年度から「首都大学東京オープンユニバーシティ（OOU）」との合同企画で開催することになった。

民大講座は、講師2人を首都大学が派遣する。老いに向かっているところからの健康がテーマ。脳神経科学の最先端の研究結果をふまえたアルツハイマー病や、自然環境と健康・感染症の現状などについて講義する。

【第1日目】（19日19時半～21時）「脳の老化と痴呆の予防ーアルツハイマー病の現在ー」

首都大学OOUは、学術研究成果を都民に還元するため3年前に設立され、社会人の学習意欲に

【第2日目】（20日14時～15時半）「少子高齢化社会の健康問題」。講師は、医学博士の菅又昌夫氏（52年秋田県生まれ。75年日本獣医畜産大学獣医学科卒。帝京大学医学部、アメリカ国立衛生研究所、東京都神経科学総合研究所を経て、現在、首都大学東京大学院人間健康科学研究科教授。）

著書・訳書は『ポケの原因を探る』『アルツハイマー病』（以上岩波新書）、『脳と神経の科学』（共著、オーム社）、『生物学的すすめ』（編著、筑摩書房）、『脳と心』（訳、みすず書房）など。

10月19,20日 島民大講座

首都大学東京OOUと共催  
ここからからだの健康

## 講座概要

首都大学東京オープンユニバーシティ公開講演会

第53回八丈島民大学講座

『老いに向かって-こころとからだの健康』

八丈町は、かつて1万人を越えていた人口が8千6百人台になり、65歳以上の高齢者の占める割合は27.5%を越える超高齢社会になりました。健康と長寿は、人類永遠の願いですが、現実には加齢にしたがってこころやからだに思いがけない変調をきたし、本人や家族にとっては深刻な問題となっています。

今回の八丈島民大学講座では、「老いに向かって-こころとからだの健康」をテーマに、脳神経科学の最先端の研究成果をふまえたアルツハイマー病のお話と、健康と少子高齢社会・自然環境と健康・感染症の現状などについて、二人の先生方に講義をお願いいたしました。

今回の講座は、首都大学東京と共催で同大学オープンユニバーシティ公開講演会として開催されるものでもあります。どうぞ、ふるってご参加ください。

日 時 10月19日(金) 午後7時30分～9時

20日(土) 午後2時～3時30分

### 第1日目 脳の老化と痴呆の予防 -アルツハイマー病の現在-



講師 黒田洋一郎先生 元東京都神経科学総合研究所参事研究員 医学博士

略歴：1943年東京都に生まれる。66年東京大学農学部農芸化学科卒業。東京大学応用微生物研究所、ロンドン大学精神医学研究所を経て、73年から東京都精神科学総合研究所研究員。

専攻：分子細胞神経生物学、神経毒性学

著書・訳書：『ボケの原因を探る』、『アルツハイマー病』（以上岩波新書）『脳と神経の科学』（共著、オーム社）『生物学のすすめ』（編著、筑摩書房）、『脳と心』（訳、みすず書房）など多数。





（歴史民俗資料館にて島民大学講座の主宰者の一人で、同館解説員でもある伊藤宏氏と）



（伝統の染め織物、黄八丈の染元「め由工房」にて。2008年5月に開講予定オープンユニバーシティ「野外講座；八丈学」のテーマの一つは黄八丈）